

カテゴリ:サステナビリティ

2025年5月9日  
FUK2 5 0 0 5

## JALと福岡市が連携し、福岡空港内の作業車両に バイオディーゼル燃料「B100燃料」の導入を開始

JALは、福岡市と連携しCO<sub>2</sub>排出量削減への取り組みの一環として空港内作業車両「トーイングトラクター<sup>(※1)</sup>」および「航空機牽引車<sup>(※2)</sup>」に、バイオディーゼル燃料濃度100%の「B100燃料」を、2025年5月12日より使用開始します。

(※1) 空港制限区域内にて航空貨物やお客さまの手荷物の運送用コンテナを牽引する車両

(※2) 空港制限区域内にて航空機のプッシュバック（後進）や牽引を行う車両

「B100燃料」は植物由来の廃食用油から精製しており、原料となる植物の成長過程において光合成を行うことでCO<sub>2</sub>を吸収しているため、カーボンニュートラルの概念で燃焼時の二酸化炭素の排出量はプラスマイナスゼロとなり、軽油と比べて1リットル当たり2.62kgのCO<sub>2</sub>排出量削減の効果が見込めます。

この取り組みにおいては福岡市が家庭から出る使用済みの天ぷら油などの廃食用油を市民より回収し、一般社団法人リーゼル協会<sup>(※3)</sup>の会員である川崎デリバリーサービス（福岡県福岡市）と株式会社未来樹（熊本県熊本市）が「B100燃料」の製造・供給を、福岡給油施設株式会社（福岡県福岡市）が給油を担当します。

(※3) 高純度バイオディーゼル燃料の製造量拡大・普及・利用推進を目指し結成された団体。



JALは、この循環型エネルギーの利用を通じて地域や社会と連携、協働して「CO<sub>2</sub>排出実質ゼロ」実現のために、持続可能なエネルギー利用によるCO<sub>2</sub>排出削減に取り組んでまいります。

【運用開始日】 2025年5月12日(月) 開始

【対象空港】 福岡空港(福岡県福岡市)

【対象車両】 福岡空港配備 JALトーイングトラクター 7台・航空機牽引車 1台

【内容】 バイオディーゼル燃料濃度100%の「B100燃料」を使用



<トーイングトラクター>



<航空機牽引車>

以上